

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0591200084		
法人名	有限会社 福寿		
事業所名	グループホーム星宮		
所在地	秋田県大仙市横堀字星宮66-3		
自己評価作成日	令和5年11月27日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	令和5年12月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中でご利用様が有する能力を發揮し、一人ひとりが生き生きと共同での生活ができるように支援している。柳田医院、木村内科医院、山本歯科医院と連携し助言や指導を受ける体制が整っている。また、入居者様の認知症状を理解し個別的に柔軟な支援ができるよう、職員間の情報共有に努めている。史跡の里の秋まつり、プランターの花植え等、地域行事への参加また近隣の小学校や、地域住民の方とのふれあいもあり気分転換を図っている。また、面会に関しても感染対策を行った上で実施している。毎月、季節感を感じられるような行事を実施し、皆さんに楽しんでいただけるよう企画している。ホームだよりや、ご家族様へのお手紙を通じて日々の様子等、入居者様の表情・声をお伝えしている。秋田県介護サービス事業所認証評価制度の認証により、子育てに優しい・有給休暇が取りやすい・資格取得のサポートがある等、職場環境が改善している。公益財団法人介護労働安定センター理事長より、魅力ある介護事業所として全国優秀賞を受賞し表彰されている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

目配り、気配りをケアのポイントとし、きめ細かいサービスを実践しています。町内会館の管理を担い、花を通じた町づくりを町内の方々と協働する等しながら地域との関係を築いています。地域との積極的な交流が利用者の暮らしに潤いをもたらし、利用者もゆったりとした環境の中で安心して生活しているように感じられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
47	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	54	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
50	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	作成した理念は玄関や事務所に提示しスタッフ全員に共有できるように努めている。新人スタッフへもオリエンテーションの際に研修を行い共有を図っている。常に意識し実践につなげている。	ホームの目標に加えてテーマを設定し、利用者の暮らしに活かせるよう取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の理容師さん来訪され理容していただいている。夏休みの小学生のラジオ体操の場所提供、地域の方々と春・秋にはプランターの花植えを協力して行っている。史跡の里秋まつりには出展や見学、地域の会館利用の管理等行っている。	利用者がここで暮らし続けるための基盤づくりとして積極的に地域と交流し、地域に根差した取り組みが行われています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	「認知症なんでも相談所」に登録し、対応できるようにしている。また、認知症の理解に関することについて研修で使用した資料等を関係者に送付している。認知症のことでお困りの方が来訪された際にも説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、運営推進会議を開催しており、様々な職種の方に委員になっていただき、色々な視点から意見をだしていただいている。話し合ったことや意見を会社・職員で共有している。	書面会議から対面会議が開催されるようになり、地域の方が参加していることから、得られる情報をサービスに活かすことができるよう努めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	各書類の提出時に相談に乗っていただいたり、疑問点などがあれば市の担当者や介護保険事務所の担当者にも問い合わせや相談できるような協力体制を整えている。	生活保護受給者の対応や制度上の不明点の相談等、積極的に連携を図り、関係づくりに努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束等の適正化のための委員会も設けており、身体拘束の研修会全職員に年2回以上実施し、新規採用時にも実施し職員の意識を高めている。加えて倫理法令遵守に関する研修も行い職員間で話し合ったり、声を掛け合い防止に努めている。	利用者の症状によっては難しいこともありますが、対応を工夫し、身体拘束、虐待のないケアに取り組んでいます。	
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度については知識が不足している為、社会福祉協議会や福祉課の関係者への相談や、研修を通して知識を高める必要がある。また、現在活用の方は居ないが研修等があれば積極的に参加していきたい。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、本人ご家族に契約内容や重要事項の説明を行い、改定時には文書や電話にて説明を行い承諾を得ている。また、解約になる事例をご説明し、ご家族からの疑問にも対応している。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	苦情窓口を事業所に設置し、苦情があった際には即座に担当者が対応し適切に対処するとともに業務に反映している。要望については面会時や計画書の見直しの際に意向を伺い周知し適切に対応している。	面会や電話で、或いは運営推進会議で意見、要望の引き出しに努めています。体操を取り入れてほしい等の生活上の要望が多いものの、苦情等の意見には真摯に向き合い、丁寧に対応しています。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	個人の自己評価に基づき事業所管理者との面談があり職員の意見や提案を聞く機会がある。また、運営管理会議や職員会議などで意見交換や相談できる機会がある。	管理者が職員の意見、提案を聞いている他、個人面談でも話を聞き、運営に反映させています。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内研修や、法人外研修またリモート研修では介護職員の交流機会をつくり、情報交換を行っている。相互訪問等については今後検討していく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に本人、家族、ケアマネージャー、医療機関等からアセスメントシートにより情報を収集し、本人の要望を聞き取り生活しやすい環境を整えている。全職員が情報を共有し支援できる体制を整えている。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	当ホームを利用に至った経緯や家族の意向を確認し困っている事、不安なことにすぐに対応し話しやすい環境を作っている。また、その都度電話等で意向・要望をお聞きし良好な関係を築けるよう努めている。		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援を念頭に持ちながら、共にできることを一緒に行ったり、作業を手伝っていただいたり、様々な事や生活の知恵を教えただきながら喜怒哀楽を共にし敬愛の念を持って一緒に生活している。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	その都度生活の様子をお伝えし意見や要望を出していただき相談している。面会や外出、外泊も可能で、受診も家族が同行していただける場合もあり助けになっている。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	携帯電話の持ち込みも可能で本人から希望時は、事業所の電話を利用しかけている。また、家族や友人から電話の際は、取り次いで自室でも会話できプライバシーにも配慮している。面会も可能であり、家族の都合で外泊も可能となっている。	要望に応じて自由に帰宅、外泊できるように支援しています。電話をかけてくれる友人がいる他、墓参りや法事に出席する等、家族の協力も得ながら関係が途切れることのないように支援しています。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様それぞれの日常生活を尊重しながら会話のきっかけになるような話題提供を心がけている。また作業やレクリエーションでは入居者様同士協力して行えるよう配慮し努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	解約し退所されても、郵便物や行政・病院からの問い合わせに対応している。また、家族様の要望を伺い、その後の対応の相談をしている。受診の際に会った時など声をかけ合って相談事があれば対応している。		
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員と一緒に本人の意向や希望を聞いている。普段の何気ない会話や支援の中で意向を確認出来ることもある。入居者様の希望、意向、心身の状態を把握し、職員間で共有し本人本位に沿うよう努めている。	日常のさまざまな場面で利用者の思いや意向が把握できるように努め、気づきも大切に情報として記録し、共有しています。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に本人や、家族、ケアマネージャーや施設職員から情報(アセスメントシート)提供していただき把握に努めている。聞き取りが足りない場合は、その都度確認するようにし入居者様の生活環境を整えるよう努めている。		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	毎月計画に沿った評価を担当者が行い、定期的に本人、家族から要望を聞き計画書の見直しを行っている。職員会議、ケアカンファレンスなどを通して職員間での情報共有を行い、個別介護計画に反映している。	担当職員を中心にしてモニタリングし、他の職員や家族の意見も反映させて現状に即した介護計画を作成しています。	
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	入居者様の状態や職員の気づきを個別記録に記録を残し、共有している。記録だけでは分かりづらい事は申し送り時にケアカンファレンスを行い細かな所も情報交換を行い実践への反映をさせている。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民の方々と一緒に地域の行事(花植え)に参加している。また、史跡の里秋まつりに手作りの作品を出展し、社会参加をしていただいている。一人ひとりに合った支援が受けられるよう心掛けている。会館の利用予約や鍵の管理を行っており感謝されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の訪問診療の際に主治医に状態報告している。体調不良時は早めに受診し悪化を防いでいる。かかりつけ薬局の薬剤師ともお薬や、本人の状態把握についても連携し入居者様の健康管理に努めている。	入居時に確認の上、協力医に変更した方もいますが、それぞれの希望に添って支援しています。歯科、薬局とも良好な関係が築かれ、適切な医療支援が行われています。	
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師がおり入居者様の日々の状態を把握し、普段と異なる気づきがあれば相談し指示を仰ぎ受診が必要であれば即座に対応している。		
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院の連携室や相談員の入院の際の情報提供を行い、退院に向けた連絡調整がスムーズに行えるようにしている。退院前カンファレンスには可能な限り参加し、連携が図れるようにしている。医師・看護師・ケアワーカーと情報共有できるように努めている。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃の様子から本人の身体状態に変化が見られた場合は、ご家族にも報告して今後のことについて話し合い相談している。また、私たちの支援ができる部分とできない部分をご説明している。また、計画書の見直しの際等にも意向確認を行うようにしている。	ホームの方針を入居時に説明して家族には了承を得ており、ホームででき得る支援をしています。	
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時は管理者に報告し、早期対応できるようにしている。急変時の対応に備えマニュアルを作成し、病院との連携がスムーズに行えるようにし職員も連絡体制を把握している。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を行い消防署とも連携を図っている。近隣の避難場所である小学校や、法人内の他事業所に避難できる体制を整えている。火災の際は職員に自動で連絡がいき駆け付けることになっている。	先頃、隣接する他サービス事業所と合同で水害を想定した訓練を実施し、避難場所についてはハザードマップで確認して対応を検討しています。夜間の火災を想定した避難訓練を今年度中に行うことにしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の誇りを傷つけないよう人生の先輩であるとの認識を持ち、言葉かけを行うようにしている。排泄時や入浴時などはプライバシーに配慮し、扉を閉めたり、身体にバスタオルをかけるなどの気を配っている。	その人を理解して状況に応じて対応できるよう努めています。気になる言葉遣いがあった時にはその都度注意して職員の理解に繋がっています。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴や、外出の際など本人に好みの服を選んでいただいている。日頃から衣類の整理を行い、衣替えや必要な衣類の購入を行っている。定期的に理容師により、整髪を行っている。		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皮むきや、もやしのヒゲ取り等、野菜の下準備を行ったり、食事の準備や後片づけを一緒に行っている。広告やカタログを見て旬の物を取り入れている。好まない食材の場合は、代替品を準備している。	ホットプレートを使用したり干し柿づくりを一緒に行ったり、さまざまな場面で利用者の力を活かす支援が行われ、楽しみに繋がっています。今後の楽しみとしてプランターで野菜をつくることを検討しています。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月、体重測定を行い、食事量や水分量は個別記録に記入し把握している。調理担当に相談をし食事形態など入居者様の状態に応じて提供している。食事摂取量や水分摂取量の少ない方の状態把握に努めている。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医の訪問診療により口腔衛生管理体制を整えている。歯磨きの声掛けや介助また、義歯洗浄の支援をしている。口腔ケア用品の点検も行い定期的に交換している。		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用い個々のパターンを把握しながら必要な部分は援助を行っている。オムツが不必要な方が多くなるよう自立支援している。夜間頻尿があり歩行不安定な方は夜間ポータブルトイレを使用している。	重度の方以外は夜間にポータブルを使用しながらトイレで排泄しており、チェック表を活用して必要な支援を行い、現状が維持できるよう支援しています。	
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や身体を動かすレクリエーションを行ったり、野菜や乳製品を摂取していただき自然排便を促している。自然排便が難しい方には医師の指導の元、下剤にて排便コントロールを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日入浴可能である。必要に応じてシャワーチェア、リフト浴なども可能である。入浴の際は、入浴剤も使用し本人のペースで温まっていだいでいる。本人に確認し、体調のすぐれない日は入浴日を変更している。	週2回を基本にしていますが、毎日沸かしていることから、連日の希望に応えることもあり、拒否があっても日にちを変えたり、声かけを工夫してスムーズな入浴に繋げています。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の入眠状態を把握し、日中は居室やソファで休む時間を作ったり、日中の活動に参加することで夜間の良眠を促す工夫をしている。室温チェック、寝具調整やエアコンなど希望に沿えるよう支援している。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳や薬袋で常に確認できるようにしており、不明な点があれば主治医、看護師や薬剤師の指示を仰いでいる。薬は日勤帯で翌日の昼食分までを準備し、名前入りのケースに保管している。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節を感じられるような行事を毎月企画し、入居者様の生活の知恵を教えていただきながら気分転換を図っている。洗濯物たたみ、掃除の得意な方や食器洗いの得意な方等、役割を持っていただいている。		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の支援も受けながら、自宅などに外出・外泊することもある。事業所としては「史跡の里の秋まつり」等のイベント参加を実施している。その他、可能な限り希望に沿えるよう支援している。	遠出ができなかった時期もありましたが、周辺を散歩し、地域の方と一緒に花を植えたり、町のイベントに参加したりと戸外に出られるよう支援しています。家族の協力も得られています。	
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能な方は所持している。現在は家族より金銭を預かっておらず、事業所で立て替えをしている。希望の物や必需品は担当者が購入し定期的に家族へ報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、リビングや廊下に季節に応じた飾りを展示したり季節を味わっていただけるようにし、家庭的な雰囲気を心掛けている。季節の花を飾ったり季節に合った作品と一緒に作り提示している。明るさ、温度などにも気を配っている。	ホールは天井が高く、開放感のある造りとなっており、ホーム内は明るく清潔感に満ち、利用者に掃除を手伝っていただくこともあります。日向ぼっこができる場所もあり、利用者それぞれが思い思いの場所で過ごすことができます。	
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られた共用空間の中ではあるが、テレビ・ソファ・テーブル・イスを配置し、お話の合う方は隣や向かい同士になって談笑されている。自由にくつろぐ事ができる環境を目指している。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族、本人も交え配置等行い、くつろげる空間作りをしている。馴染みの物を使用したり、自分で配置することで居心地よく過ごせている。担当者が写真、創作物などの飾りつけをし明るい雰囲気作りをしている。	馴染みの物を持ち込んで、家族、職員と一緒に居心地の良い居室づくりをしています。ホール、居室共に温湿度を確認し、快適な環境で過ごせるよう配慮しています。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内のトイレには分かりやすいように掲示を行っている。手すりのがたつきが無いが、動線上に障害物や危険が無いよう配慮し安全な環境を整え自力歩行などに支障のないよう努めている。		